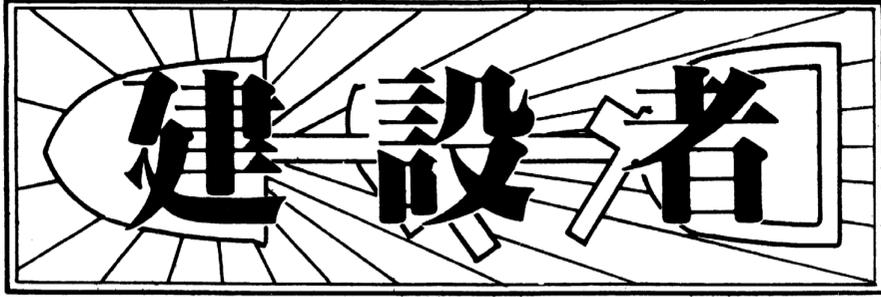


今月の葛飾組織現勢

2021年12月1日	4,375人
加 入	23人
転 入	1人
脱 退	88人
転 出	2人
2022年1月1日現在	4,309人



東京土建一般労働組合

葛 飾 支 部

〒124-0012 葛飾区立石8-34-4

電 話 (5698) 1 2 6 1

FAX (5698) 1 2 6 2

発行人 関 根 伸 正

# 電有分会 筒井豊さん 2人を建築カレッジに送り出す

## 若手を育成 現場で学び、建築カレッジで学ぶ



(株)豊栄工務店のみなさん。左から甲斐隆史さん、筒井豊さん、筒井啓翔さん、関口成樹さん  
(撮影場所：大田区新築現場)

### 若手育成も世代交代はまだない

## 現場で父の背中を見せ指導

亀有分会の分会長を務めながら(株)豊栄工務店の社長である筒井豊さん(54歳)。工務店を営み、従業員である関口成樹さん(26歳)と息子の啓翔さん(20歳)を建築カレ

ッジに送りながら、若い人材を後継者として育てています。面倒見がよく、若い人を育てるのが好きという筒井豊さん。2年前までは個人事業主

として仕事をしていました。が、息子の啓翔さんが一緒に仕事をすると言ったことがきっかけで、今の会社を設立。「自分も大工として親の後を継いだので、息子が言ったそ

の時はうれしかった。」と話す筒井豊さん。今では、息子の啓翔さんを含めて3人の従業員と一緒に工務店を営んでいます。

建設業界全体が後継者不足を言われ続けてきていることには、「実際に求人しても集まらなかった経験を踏まえて身にしみてわかってる。若い入職者が少なくなっている今だからこそ、2人にはカレ



筒井豊さん

ッジで技術をしっかりと学んでほしいし、そのことは将来重宝されるはずですよ。」と。仕事に対しては、「絶対に手を抜かないこと。お客さんはほとんどが一生に一度の買い物、そのつもりで従業員にはやるように指導している。」と。また、息子と一緒に仕事をしようになった今でも「やる限りは現役。世代交代はまだない。」と言いつつ豊さん。技術・知識を教え、経験を積ませ、若い世代を育てている豊さんのもとでは、来年4月からもう一人の息子が入職、カレッジ入校する予定です。

### 2人のカレッジ生

#### 実家を継ぐ

#### ため修行中



関口成樹さん

関口成樹さんは、足立支部所属の工務店の跡継ぎで、父親の知り合いを通じて一昨年度入社。建築カレッジには、昨年4月に入学し、建築を学びながら筒井さんのもとで働いています。豊さんについては、「やさしいし、いろいろ教えてくれる。」と話す関口さん。将来の家業を継ぐために筒井さんのもとで修業中です。

### 現場の父の姿に影響



筒井啓翔さん

筒井啓翔さんは、建築カレッジをこの3月で卒業します。父豊さんと一緒に働こうと思ったのが「現場の父を見てかっこいいなと思ったから。」と。現場で一緒に働き始めて改めて、技術・知識など仕事を通して父を改めて尊敬したとも。「他の人は5年で一人前と見られるかもしれないが、父は認めてくれるまでは10年はかかると思う。」と。

今年の初夢はみなさんどんな夢を見ることができたでしょうか。「富士、鷹、三茄子」はよく聞く言葉だが、初夢に見ると縁起が良いものとされている。富士山のように高い目標を叶え、鷹のように強く自由に大空を羽ばたき、大きなことを「成す(三茄子)」という願いから来ている。

今年の組合の目標、行動、成果はどうであろうか。今年度は、昨年度までの長い国との裁判で国と建材メーカーの責任を認める判決を最高裁で勝ち取り、建設アスベストの給付金制度が始まる。組合としてはしっかりと被害者のサポートをしていきたい。また、葛飾区においては、昨年条例制定された公契約条例の更なる前進を勝ち取る運動も私たちの賃金上昇を進めるうえで重要になる。地域とのつながりを作る面では、新型コロナウイルスの感染状況次第にはなるが、久しく地域の取り組みとしてできていなかった住宅ローンの開催などのイベントの開催が進むことを期待したい。そして、組合内の取り組みとしては、レクなどを通じて組合員同士の交流ができる場も増えていくことも期待していきたい。

新年から心配事を書くことはしたくないが、新型コロナウイルスの感染状況が終息に向かうことは国民の願いであろう。私たちの生活、建設業にとって、この2022年が良い年であることを祈りたい。

### 寅さん

今年の初夢はみなさんどんな夢を見ることができたでしょうか。「富士、鷹、三茄子」はよく聞く言葉だが、初夢に見ると縁起が良いものとされている。富士山のように高い目標を叶え、鷹のように強く自由に大空を羽ばたき、大きなことを「成す(三茄子)」という願いから来ている。

# コロナ禍でもできること運動をすすめる

## 消費税の減税・インボイス制度反対を訴えた駅頭宣伝



青砥駅での宣伝行動 11月26日

### スタンディングアピール

11月26日(金)夕方、久しぶりの増税反対駅頭宣伝行動を青砥駅で行いました。参加者は14人、うち葛飾支部からは10人が参加しました。今年の増税反対駅頭宣伝行動は、新型コロナウイルス感染拡大

今年10月から登録が開始となったインボイス制度(適格請求書等保存方式)。11月に日本商工会議所が会員企業対象にこの制度のヒアリング調査を行った結果、売上高100万円以下の事業者の約7

### インボイス 混乱を招く制度

この状況で何ができるかを考えての行動でした。宣伝行動ができないことで一番怖いのは、インボイス制度の周知ができていないうちに、制度が始まってしまふこと。今後もしっかりとできることからアピールしていきます。



及川委員長

# 及川執行委員長 良かった頼りになる組合を目指す

組合員、家族の皆さん、新年あけましておめでとうございます。委員長2年目になります。委員長の2年目になり、細田高砂分会所属の及川光太郎です。新型

コロナウイルスがなかなか終息しない中、春・秋と拡大運動、ハガキ署名要請行動、インボイス学習会、NAAZU(町の救助隊)など、取り組みに参加していただいた組合員の皆様ありがとうございます。昨年は私達役員も運動を重ね、区議の先生方の協力により、昨年の3月26日に

は公契約の業務に従事する者の適正な労働条件が確保されることを基本理念とする公契約条例が成立しました。秋には区のリサイクル環境課の方たちと葛飾支部において防災協定も結ぶことができました。今年も昨年より少しは新型コロナウイルスも終息していくと信じて、みなさま

と住宅デーや色々なレクリエーションを通じて、「組合に入っていて良かったな」「頼りになるな」と思える組合を目指して頑張っていきますので、今年も皆様のご協力賜りますよう、本年も宜しくお願いします。

### 動画を見よう

この制度は、個人タクシーやシルバー人材センターなどで働く方にも影響が及ぶ問題で、大きな混乱を招きかねません。組合としては、特に建設業に大きな問題を引き起こす制度として、制度導入に反対しています。紙面では伝わりにくいこのインボイス制度を動画でも配信しています。私たちの仕事にとって将来どんなことが予想されるのか。しっかり動画を見て今から学習していきましょう。



本部 YOUTUBE 動画

## 働き方改革って知ってますか? 事業所セミナー開催

雇い入れを行う事業主としての正しい知識を学ぶセミナーです。日時:1月28日(金) 19時、会場:葛飾支部会館 申込締切:1月26日(水) ※申込多数の場合、会場の関係によりお断りすることもあります。



建設アスベスト東京2陣 国と和解 2021年12月16日

立、3陣も和解の方向になる見通しです。対建材メーカーへの責任追及では、第4陣の組織化を進めています。

## 首都圏建設アスベスト 相談は支部へ

首都圏建設アスベスト訴訟は、昨年5月の最高裁判決を受け、国からの謝罪及び、基本合意書を調印、国からの補償は裁判なく申請できる「建設アスベスト給付金制度」の創設へと結実しました。ただし、建設業への特定従事期間の指定や、喫煙歴、疾患ごとの従事期間が足りない場合の減額制限があること、さらには屋外作業者はこの制度の対象から除外されています。この給付金制度は4月スタートの予定ですが、高額な成功報酬を目的としたフリーライダー弁護士事務所によるCM発信もなされています。この給付金の制度は弁護士事務所を通じなくても受け取れる制度です。アスベストで労災認定された方、職業病によるアスベスト疾患が疑われる方は、まず組合までご相談ください。

建設アスベスト訴訟は、昨年12月16日、東京第2陣は東京高裁にて国との和解が成立、3陣も和解の方向になる見通しです。対建材メーカーへの責任追及では、第4陣の組織化を進めています。

## 石綿含有報告 今年4月から義務化

大気汚染防止法・石綿障害予防規則の改正により、建築物の解体・改修工事時の石綿飛散防止対策が強化されています。この対象となる工事は、①延床面積80㎡以上の建築物解体工事 ②請負金額100万円以上の建築物の改修工事となり、今年4月から、石綿含有物の事前調査及び、報告が義務化されています。また、2023年10月から、調査者の資格を取得した者による事前調査が義務付けられています。

これからの調査資格について対応できるようにするために、東京土建として調査資格取得講習の開催を左記のように予定しています。【日次】 2022年3月7・8日 【会場】 けんせつプラザ東京 【定員】 100人 受講には受講資格がありません。詳細は葛飾支部事務所までお問い合わせください。

2021年 年間拡大到達表

	1/1 人員 基準	年間 目標	第1ラウンド		第2ラウンド		第3ラウンド				年間 到達	年間 残数	到達率		
			春一番 (2.5%)		春月間 (3.5%)		夏日常 (2.5%)		秋月間 (3.5%)					年末 (1%or残)	
			目標	到達	目標	到達	目標	到達	目標	到達				目標	到達
たつみ	504	66	13	8	18	18	13	4	18	7	5	3	40	26	60.6%
奥戸	393	51	10	5	14	17	10	7	14	26	3	5	60	-9	117.6%
本田立石	326	42	8	2	11	6	8	3	11	3	4	4	18	24	42.9%
青戸	160	21	4	4	6	6	4	3	6	6	1	1	19	2	90.5%
中央	391	51	10	5	14	14	10	11	14	17	3	6	53	-2	103.9%
堀切	269	34	7	6	9	9	7	2	9	10	2	3	30	4	88.2%
亀有	389	51	10	9	14	4	10	3	14	5	3	2	23	28	45.1%
細田高砂	367	48	9	13	13	23	9	9	13	14	4	3	62	-14	129.2%
柴又	187	25	5	4	7	8	5		7	9	1	1	22	3	88.0%
新金町	322	42	8	3	11	13	8	5	11	12	4	1	34	8	81.0%
北水元	212	28	5	0	8	8	5	3	8	10	2	2	23	5	82.1%
幸田	277	36	7	7	10	10	7	2	10	15	2	3	37	-1	102.8%
水元	393	51	10	6	14	15	10	2	14	15	3	2	40	11	78.4%
その他	200	26	5	8	7	8	5	2	7	8	2	1	27	-1	103.8%
合計	4390	572	111	80	156	159	111	56	156	157	39	36	488	84	85.3%
支部目標			111		156		111		156		22				

# 2021年拡大 4分会が年間目標達成

## 2022年は組織減少止め、増勢を

労働組合に仲間を増やす取り組みは欠かせません。2021年組織拡大は、年間拡大目標572人に対して、484人の加入。年間拡大達成率は、奥戸・中央・細田高砂・幸田の4分会。組織人員は、1月1日付4390人に対して、今年の1月1日4309人で、マイナス81人と大幅な組織減となっています。そんな中、前年比で増勢の分会が2分会ありました。5人の増勢の奥戸分会と12人を増勢の細田高砂分会です。

ここ10年間の組織人員推移（1月1日）は左記の通りです。

2018年	4613人	増勢
2019年	4552人	減少
2020年	4488人	減少
2021年	4390人	減少
2022年	4309人	減少

1月に入り、春一番拡大月間突入しています。統一行動日は左記のとおりです。

【統一行動日 3日間】  
1月27日(木)・2月17日(木)・3月17日(木)

周りに未加入の仕事仲間がいたら、ぜひ組合加入を進めていきましょう。



ビンゴ大会でもりあがる

## 分会だより

### 久しぶりの分会レクを楽しむ

### たつみ分会

#### 31人で忘年会

【たつみ分会 村越義一通信】師走に入ったばかりの12月5日(日)、コロナ禍の中でしたが小康状態が続いていたこともあり、たつみ分会では31人の参加で忘年会を行いました。

場所は地元にある「古代の湯」。開館時間の10時から受付を始め12時までお風呂に入った後、宴会をスタート。乾杯後一息ついてビンゴで盛り上がりました。カラオケも楽しんで楽しい1日になりました。

### 柴又分会

#### BBQで楽しいひと時



バーベキュー忘年会

【柴又分会 市瀬隆】11月28日(日)午前11時より、柴又分会の市瀬宅前でバーベキュー&忘年会が行われました。

当日、この時期としては、めずらしく(南向きというところもあり)とても暖かく、そこでアルコールも入り、テンションも上がり、普段話をしない話題も上がり、楽しいひと時となりました。参加者からは「楽しかったね」「またやろうね!」「またやろうね!」という話となり、解散となりました。

## 生活支援プロジェクトに300人



支援物資を配布(曳舟川親水公園)

第4回となる生活支援プロジェクトを11月27日(土)13時から曳舟川親水公園(お花茶屋駅)で開催。主催は、新型コロナウイルスから区民のいのちと生活を守る葛飾連絡会、区労連、葛飾民商をはじめ、東京土建葛飾支部も参加。区内の18団体で構成しています。

### 生活支援必要

当日は、準備段階の12時から人が並び始め、13時開始時点で150人近くの長い列が。支援を求めて来場された方は300人近くに上りました。宣言が解除されているとはいえ、まだまだ生活支援を求める人の多さに、生活の厳しさがうかがえる結果となりました。

支援物資は、葛飾区や区内農家の方などさまざまな方面からの提供物資や、カンパによって揃えて臨みました。

いつでも・どこでも・何回でも視聴できる!

# 中央ろうきん

## Web動画サイトのご紹介!

その1 セミナー紹介

講師が動画で分かりやすく説明!

ろうきんイメージモデル 高梨晶

その2 商品紹介

資産運用商品や各種ローン商品について動画で分かりやすく説明!

iDeCo つみたてNSA 投資信託

マイプラン カーライフローン 住宅ローン

商品の詳細は(中央ろうきん)千住支店へ TEL:03-3882-3121

R 中央ろうきん 2021年4月1日現在

# 水元分会 弓場 元一さん

## 葛美中学校で

### 野球を通じて熱血指導



弓場元一さん

水元分会所属の弓場元一（ゆば もとかず）さん。78歳の今でも地元葛美中学校の中学生に野球を教え続ける熱血組員です。

出身は奈良県で、16歳で東京に上京し働き始め、昭和55年の37歳の時に葛飾区水元に住所を構えることに。野球は奈良県での少年時代と上京してからの5年位。葛飾に移住した際は特別に野球チームに所属していた訳ではありませんでした。

再び野球にたずさわるときは、長男（大介さん）の小学校1年生の時の地元の野球チーム飯塚コンドル入団。そのチームでコーチに就任することから始まります。その後、大介さんが葛美中学校入学（この時、野球部はありませんでした。当時は金八先生やスクールウォーズなど荒れている中高生を熱血先生が指導していくドラマが流行。まさに野球を通じて



親子でコーチをしていた時もありました  
(中央左：大介さん、右：元一さん)

このような地域の少年への貢献から、平成19年には東京都教育委員会から「ふれあい感謝状21」を受賞しています。

#### 協力あってこそ

「野球が好きで、子どもが好きでないといけないこと。それと妻の理解、家族の理解、地元のみなさんの協力、みんなの協力がなければできなかったことです。」と語る弓場元一さん。大会で顔を会わせる近隣他区を含めた他校の指導者からは、葛飾のレジェンドと呼ばれるほど指導者としての歴史が長いです。今でも子供たちには、深い愛情をもって指導しています。

## コロナに負けない2022年を 元気いっぱい寅年生まれ

### 細田高砂分会 加藤 信男さん

#### 私の技術経験で貢献できれば



加藤信男さん

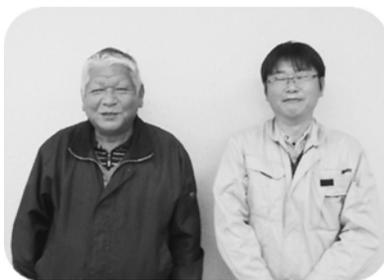
組合では過去には、支部副委員長や分会長など高砂地域で活躍し、葛飾支部最初の分会再編を行い、再編後の細田高砂分会でも重要な分会役員として今なお活躍する加藤信男さんは、今年72歳の年男です。

現在の高砂で生まれ育ち、建築工学を学び、父親の勧めで加藤工務店で働き始めました。年号が平成に変わり、2代目として加藤工務店を継ぎ、今なお現役の大手として活躍しています。

「父と一緒に働いていた時は、技術の習得と工務店経営の双方を学ぶ上で、考えの違いで、時々喧嘩をしていましたね。その当時、私は、これからは資格もしっかり取って仕事をしないとと思っていたのです。それでも、喧嘩しながらも、技術・現場での知識など一通りのことを父のもとで修業できたから、今がある、今はそう思います。」と。

「この年になると定年退職している人が多い中、生涯現役でいられる。私の町場の木造大工職技術（今、絶滅危惧種とも言われている）、建築士などの国家資格を必要としている人がいる。健康に気をつけて貢献できればと思っています。」と語っていただきました。

### 分会 星野宣人さん・聖人さん親子 建設業界に明るい光



左から星野宣人さん・聖人さん

今年親子で年男のたつみ分会所属の星野さん。父・宣人さんは72歳、息子・聖人さんは48歳になります。2人は、父・宣人さんが31歳の時に立ち上げた新星建設株式会社と一緒に働く親子です。独立し

て人とのつながりの中から仕事を確保してきた父・宣人さんと、積水などで修行して技術を磨いてきた息子・聖人さん。それぞれ仕事に向かうスタイルが異なりますが、一緒に会社を盛り立てています。

息子・聖人さんは、子どもが大きくなり自分の時間が作りやすくなった今では、「誰かの役に立てることであればやろうと思った。」と、その思いを行動に移し、群会計や町会役員を務めています。

今年抱負はどの問いかけには、「新型コロナウイルスには、」と語っていただきました。

・ウッドショックなど不景気な話でている昨今ですが、何とか仕事が出来ました。新年を迎えるにあたって新しいことは求めないが、明るく楽しくやっていきたい。」と父・宣人さん。息子の聖人さんも「近い将来、自分の子どもと一緒に仕事をしていきたい。」と親子3世代での仕事をすると、未来予想図を描いています。

父宣人さんと息子聖人さんそれぞれがプライドをもちながら、人と人とのつながりを大切にしながら仕事につなげていく。そして、未来にバトンをたくしていく。この親子・孫を含めたバトンの受け渡しは、後継者不足と言われる続けているこの建設業界に明るい光を当てています。